

H31学力向上アクションプラン(国東市)

目標及び指標

【目標】

- 1 国東市学力調査において、全国平均以上（偏差値50以上）の項目を小学校20/30項目、中学校17/20を達成する。
- 2 管理職、主要主任、指導教諭等を中心として各学校の課題に応じた主体的・組織的な授業改善を推進する。

| 達成指標 | 取組指標 |
|--|--|
| 1 国東市学力調査において小学校は、30/30 中学校は、17/20 項目を達成する。 【H29小学校 17/30 中学校 14/20】 | 1 年度当初の校長・教頭・教務主任会において、授業改善に係る焦点化した重点を提起し、要請訪問時にもその点について点検し、取組の徹底を図る。 2 管理職授業研究協議会を年間5回実施し、管理職の指導力を向上させ、校内における授業改善の日常化を強化する。 3 小学校外国語教育の研修を全5コース設定し、すべての小学校教諭がそのいずれかを選択し、研修を行うことで、指導力向上を図る。 4 学力向上支援教員をより一層活用し、所属校での活用はもとより、校内研修に必ず招聘し、研修の講師を務める等、従前より指導的な役割を与える。 5 教育委員会が、中学校教科研修協議会を3回以上実施し、全中学校教員が参加する。 6 教育委員会が、著名な指導者による公開授業及び講演会を年間1回実施し、全小学校教員が参加する。また、公開授業・講演会後は、要請訪問、主任会等において、公開授業、講演の内容と新大分スタンダードをつなぐ役割を担い、新大分スタンダードの質の向上を図る。 |
| 2-1 学校評価の4点セットの学力に関する重点目標の全ての項目の達成状況A以上の学校を50%以上。 【H29年度 3学期評価においてすべてA以上2/15】 | |
| 2-2 授業改善チェックリストによる校長の自校評価及び要請訪問による指導主事の評価において、 ①「授業改善5点セット」によるPDCAサイクルの実践 ②管理職による授業観察及びキャリアステージに応じた適切な指導 がA評価である学校の割合100%。 | |

行動計画

①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想と実施による質の向上について

- 年度当初の校長・教頭・教務主任会において、授業改善に係る焦点化した重点を提起し、要請訪問時にもその点について点検し、取組の徹底を図る。
 - ア 具体的な評価規準の設定とその達成を図るための「教材・めあて・課題・まとめ・振り返り」の質の向上
 - イ 校内研や教科部会の中で、授業づくりの工夫及び個に応じた指導に取り組み、授業改善を図る。
 - ウ 定期考査及び単元テストにおいて、活用問題を出題する。
- 管理職授業研究協議会を年間5回実施し、管理職の指導力を向上させ、校内における授業改善の日常化を強化する。
- 学力向上支援教員をより一層活用し、所属校での活用はもとより、校内研修に必ず招聘し、研修の講師を務める等、指導的な役割を与える。
- 教育委員会が、中学校教科研修協議会を3回以上実施し、全中学校教員が参加する。
- 教育委員会が、著名な指導者による公開授業及び講演会を年間1回実施し、全小学校教員が参加する。また、公開授業・講演会後は、要請訪問、主任会等において、公開授業、講演の内容と新大分スタンダードをつなぐ役割を担い、新大分スタンダードの質の向上を図る。

②「中学校学力向上対策3つの提言」の3つの項目(6つの視点)の実施に関して

- 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底
 - ア 公開授業、部会の授業研究会で提示する本時案の様式を統一し、重点を共有する。
 - イ 管理職授業研究協議会を実施し、県・市の重点事項の共有や指導事項の共有を行い指導力の向上を図り、校内での授業参観後の指導や校内研修での指導に生かす。
- 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
 - ア 国東市中学校教科指導力向上協議会を年間3回以上実施し、活用問題の交流をしたり、先輩が後輩に対して効果的な指導方法等を引き継いだりして、教科指導力の向上を図る。
 - イ 課題のある数学・国語において「活用力向上協議会」を立ち上げ、市教委の指導の下教科部会で協議を行い、生徒の活用力を高める。
 - ・定期テストで使用した活用問題の共有、作成方法の共有
 - ・授業アイデア例を活用した授業の企画・実践
 - ・問題データベースを活用した授業の実践
 - ・言語活動ハンドブックを活用した授業の企画・実践
- 「生徒と共に創る授業」の推進
 - ア 毎学期末に生徒による授業アンケートを実施し、生徒の声を授業に反映させる。
 - イ 学校が目指す授業像を生徒と共有し、生徒に目標を設定させ、適宜振り返り活動を行う。

③小学校教科担任制の推進に関して

- 【目的】
 - 教科の専門性の高い授業を行い、学力の向上及び学びに向かう力の向上を図る。
 - 授業を通して多くの教員が関わることにより、児童を多面的、多角的にとらえ、生徒指導の向上を図る。
 - 教科担任制を行うことにより、中学校への円滑な接続を図る。
- 【学校名及び学年】
 - 国東小学校の5・6年生、安岐中央小学校の5・6年生、安岐小学校の4・5・6年生
- 【実施教科】
 - 国語、社会、算数、理科で実施し、その他の教科については、学校ごとに年度当初に定める。
- 【効果測定】
 - 国東市学力調査（12月実施）
 - 単元末テスト（3校共通）
 - アンケートにより学びに向かう力の伸びを検証する。
- 【市教委での取組】
 - 市教委と推進教員による連絡協議会を年間4回開催する。
 - 教務主任会において取組の発表を行い、取組の推進を図る。
 - 指導法工夫改善加配配置校において、一部教科の交換授業を実施する。○年度末に教科担任制の拡充に向け取り組み事例を作成する。

④新学習指導要領の実施等に関して

- 育てたい資質・能力を踏まえた学校の教育目標の明確化を図る。○学校教育目標とつながりをふまえた教育課程の編成を図る。
- 小学校外国語教育の対応について
 - ・研究指定校を1校選定し、市内に先駆けた取り組みを行い、年間1回の公開授業を行う。(2/2年目)
 - ・年度内にすべての小学校教員が、以下のいずれかの研修を選択し、指導力の向上を図る。
 - ア 市教委主催外国語教育研修会（年1回）
 - イ 研究指定校による公開授業及び研修会（年1回）
 - ウ くにしき地区教育研究会主催公開授業（年1回）
 - エ 市外の研究指定校等の公開授業
 - オ 県及び県教育センターが主催する研修会
- 地域とともにある学校づくりの推進 国東町、国見町の小中学校を新たにコミュニティ・スクールに指定する。(15/15)